

## 音楽科学習指導案

3年3組 28名 指導者 福留三穂

本授業では、以下の検証を行うものである。  
表現領域と鑑賞領域を関連させる学習活動を取り入れたり、言語活動を充実させたりすることにより、子どもたちは自分の思いや意図をもって表現する力を高めることができたか。

## 1 題 材 拍のながれにのろう

「とどけよう このゆめを」 安西 薫 作詞／長谷部匡俊 作曲  
「新しい世界」 湯川れい子 日本語詞／アラン メンケン作曲／藤原嘉文 編曲  
「坂道」「雨上がり」「白い雲」「そよ風」  
せんりつづくり

## 2 目 標

拍の流れに乗って、拍子を感じ取りながら表現したり聴いたりすることができるようにするとともに、拍子に乗って、きれいな音でリコーダーを演奏することができるようにする。

## 3 題材の評価規準

- 拍の流れを感じ取りながらいろいろな拍子の音楽を演奏したり、拍の流れに乗って音楽を聴いたり、簡単な旋律をつくったりする学習に進んで取り組もうとしている。【音楽への関心・意欲・態度】
- 拍の流れや曲想を感じ取って、それにふさわしい歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫したり、自分の気に入る簡単な旋律をつくるために音の組み合わせ方を工夫したりしている。【音楽表現の創意工夫】
- いろいろな拍子の拍の流れに乗って、曲想にふさわしい表現で歌ったり、きれいな音色でリコーダーを演奏したりしている。【音楽表現の技能】
- 拍の流れに乗って体を動かしたり、二重唱の声の重なりや掛け合いの部分の面白さを感じ取ったりしながら聴いている。【鑑賞の能力】

## 4 題材について

## (1) 題材の価値

子どもたちはこれまでに、2学年の題材「リズムにのってあそぼう」で、拍のまとまりや拍子の違いを感じ取ったり、拍子を感じ取りながら歌ったり楽器を演奏したりする学習に取り組んできている。

本題材では、2学年で学習した2拍子や3拍子に新たに4拍子を加え、拍の流れに乗って、拍子を感じ取りながら鑑賞したり、表現したりすることができるようになることをねらいとした。

「とどけよう このゆめを」は、前半と後半の旋律の特徴や曲想の違いを感じ取らせたり、拍の流れに乗って体を動かしたりさせることで、4拍子の流れに乗って歌うことができるようにさせる。また、歌による旋律とリコーダーによる旋律を重ねて演奏する初めての教材であるため、きれいな音色を意識させたり、互いの音色を聴きながら拍の流れに乗って演奏することで、歌声と楽器の音の響き合いを味わわせたりするようにする。

「新しい世界」は、ディズニー映画「アラジン」の中の一曲で、主人公の二人が魔法のじゅうたんに乗って、新しい世界を探そうと大空を旅する場面で歌われる曲である。子どもにとってはなじみやすい曲であり、体を動かしたり、場面を想像したりしながら聴く学習に適した教材である。その際は、聴く観点を明確にすることで、拍の流れを感じ取らせるとともに、声の掛け合いの面白さを感じ取らせたい。また、音楽を聴いて想像したことや感じ取ったことの原因を音楽の中から見付けさせて、それらを体の動きや音などで表し、教師や友達と意見交換をすることで、言語活動の充実を図り、能動的で創造的な鑑賞学習が行われるようにする。

「坂道／雨上がり／白い雲／そよ風」は、曲によって拍子が違う教材である。それぞれの拍子の違いを感じ取らせたり、タンギングや息づかいを確かめながら一つ一つの音をていねいに吹かせたりすることで、拍の流れに乗ってきれいな音色で演奏できるようにさせたい。また、範奏を聴かせたり、リコーダーの構え方や穴のふさぎ方、音の出し方を教師や友達同士で比較することで、一人一人の課題に気付かせ、繰り返し学習に主体的に取り組ませたい。

「せんりつづくり」は、ラ・ド・レの3つの音を使って4拍子のお囃子の旋律をつくる教材である。また、記譜の仕方を確認して、楽譜を書く活動や楽譜を見ながら演奏する活動に慣れさせていきたい。

これらの学習は、旋律の特徴を感じ取ったり、旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現の仕方を工夫しながら演奏したりする学習へと発展していく。このような学習をすることにより、子どもたちは、自分の思いや意図を表現に生かしながら、豊かな表現ができるようになるものと考えている。

## (2) 子どもの実態と指導

本学級の子どもたちは、音楽科の学習に対する関心・意欲が高く、進んで表現する子どもが多い。しかし、音楽を聴いて想像したことや感じ取ったことについて、その理由を〔共通事項〕と関連させながら考えて、音楽のよさや面白さを感じ取ったり、自分の思いや意図を伝え合いながらより豊かな表現を追究したりする能力は、まだ十分とは言えない。

そこで、表現と鑑賞の活動を関連させながら思考・判断させる活動を行わせることで、音楽のよさや面白さを十分に感じ取れるようにする。さらに、音楽から感じ取ったことを言葉や体の動き、音で表す活動を行わせたり、自分の思いや意図を伝え合う活動を設定したりすることで、互いの感じ方に気づき、より豊かな表現を追究できるように指導していく。

## 5 指導計画（総時数6時間）

主な学習活動【評価規準】	〔共通事項〕	時間
1 題材「拍のながれにのろう」の題材で、2拍子や3拍子、4拍子の流れに乗って、演奏したり、聴いたりする学習に取り組むことを知る。 とどけよう このゆめを 曲の特徴を感じ取って聴いたり、4拍子の流れに乗って歌ったりする。 【技：拍の流れに乗って、曲想にふさわしい表現で歌ったり、きれいな音色でリコーダーを演奏したりしている。】	4分の4拍子 拍の流れ 旋律	1
2 拍の流れに乗って、体を動かしながら聴いたり、音の重なりを感じ取ったりして聴く。 【鑑：拍の流れに乗って体を動かしたり、二重唱の声の重なりや掛け合いの部分の面白さを感じ取ったりしながら聴いている。】	4分の4拍子 拍の流れや フレーズ	1 (本時)
3 いろいろな拍子の曲を吹く。 【技：2拍子、3拍子、4拍子拍の流れに乗って曲想にふさわしい表現で歌ったり、きれいな音色で演奏したりしている。】	4分の2拍子 4分の3拍子 4分の4拍子 拍の流れ	2
4 リコーダーを吹きながら、3つの音と教科書のリズムを使って、自分の気に入った旋律をつくる。 【創：自分の気に入る簡単な旋律をつくるために音の組み合わせ方を工夫している。】	拍の流れ 旋律 音色	1
5 つくった旋律をみんなで順番にリコーダーで吹いていく。 【技：拍の流れに乗って、曲想にふさわしいきれいな音色でリコーダーを演奏している。】		1

## 6 本 時（2/6）

### (1) 目 標

拍の流れに乗って、拍子を感じ取りながら聴いたり、二重唱の声の重なりや掛け合いの部分の面白さを感じ取ったりしながら聴くことができるようにする。

### (2) 評価規準

情景を想像しながら拍の流れに乗って体を動かしたり、男声と女声の重なりや掛け合いの部分の面白さを感じ取ったりしながら聴いている。 【鑑賞の能力】

### (3) 指導に当たって

「つかむ」過程は、前時で学習した歌唱教材を活用して、4拍子の音楽の感じには、はずんだ感じとなめらかな感じがあることを想起させる。また、いろいろな拍子の特徴を話し合ったり、音楽に合わせて体を動かしたりすることで、拍の流れを感じ取らせたい。「見通す」過程は、学習の進め方について話し合うとともに、音楽に合う動きは、拍の流れに合う体の動きをすればよいことに気付かせることができるようにする。「追究する」過程は、初発の感想を多く引き出し、互いの思いを共有することで、様々な拍の流れを感じ取らせたい。さらに、音楽に合う動きをする役と拍打ちをする役に分けたり、教師が打つ拍に合わせて自由に動いたりするなどの鑑賞と表現を関連させた活動を行う。また、声の掛け合いの面白さに気付いた児童の発言から、音が掛け合いながら重なる場合も拍の流れは変わらないことにも気付かせたい。「磨き合う」過程は、音楽に合う動きをしながら聴いたり、全体をじっくり味わって聴いたりする場や、活動を通して感じたことや考えたことを伝え合う場を設定するなど言語活動を充実させることで、拍の流れに乗って拍子を感じ取ることのよさや楽しさを考えさせたい。「振り返る」過程では、本時のめあてをもとに自己評価をや相互評価をさせ、拍の流れに乗って拍子を感じ取りながら聴くことができるようになったことを実感させたい。また、学習の取組対し

て称賛の言葉を掛けることにより、次時への学習意欲を高めるようにしたい。

(4) 本時の展開

[ ] 子どもの意識

教師の手立て

※評価

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価
8	つかむ	1 「とどけようこのゆめを」を演奏したり、曲に合わせて体を動かしたりする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>前半は明るくはずむ感じだったよ。</li> <li>後半はなめらかな感じだったよ。</li> <li>4分の4拍子の曲だったから、こんな動きに合わせて歌いたい。</li> </ul>
		2 学習課題と追究方法を確かめる。 「新しい世界」という曲を拍のながれにのってきこう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>どんな感じの曲なのだろう。</li> <li>歌ったり、体を動かしたりしたいな。</li> </ul>
22	見通す	3 学習の進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>2拍子、3拍子、4拍子の中のどれかだろうね。</li> <li>どんな動きが拍子に合うのかな。</li> <li>できた動きはみんなに発表したいな。</li> </ul>
		4 「新しい世界」を聴く。 (1) 聴いた感想を話し合ったり、体を動かしながら聴いたりする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>なめらかできれいな感じだね。</li> <li>曲が盛り上がるころは、回る動きや両手を広げる動きが合うと思うよ。</li> <li>最後は、二人の歌声が聴こえたよ。アラジンとジャスミンが二人で楽しく話をしているような感じだ。</li> </ul> (2) 拍の流れを感じ取りながら聴く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>拍を言いながら聴くとよさそうだよ。</li> <li>音楽の流れは、1・2も1・2・3・4も合いそうだね。</li> <li>タンタタンタンというはずんだ感じのリズムは4拍子の流れに乗れるのかな。</li> <li>グループで合う動きを考えてみたよ。</li> </ul>
12	磨き合う	5 体を動かしながら全体を聴いて感じたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽に合う動きはいろいろあったね。</li> <li>拍の流れに乗って動くには、拍を言いながら動くと分かりやすかったよ。</li> <li>指揮をしながら聴くと、4分の4拍子に合うことが分かったよ。</li> <li>4分の4拍子の曲は他にもあるんだね。</li> <li>二人が交代ずつ歌ったり、声を重ねて歌ったりすると、いい響きだね。</li> </ul>
		6 本時の学習を振り返るとともに、今後の学習について話し合う。 拍の流れに乗って体を動かすと、曲の拍子を感じ取ることができたよ。
3	振り返る	

「音タイム」で、前時の歌唱教材を活用して、音楽の感じや拍子について話し合わせることで、本時の学習とも関連があることを知らせる。

2年生で学習した、2拍子や3拍子を想起させて、それぞれの拍の流れに乗った体の動かし方や拍子の感じ方の違いを気付かせることで、本時の学習への意欲付けを図る。

音楽に合わせて動くには、音楽をよく聴きながら旋律を口ずさんだり、一定の速さに合う動きを試してみたりすることが大切であることを知らせる。また、アラジンの物語の場面設定も紹介することで、じゅうたんや空、魔法などをイメージしながら活動できるようにさせる。

拍の流れを意識させるために、拍打ちをさせたり、拍の流れを体の動きで表現させたりする。

※ 情景を想像しながら拍の流れに乗って体を動かしたり、男声と女声の重なりや掛け合いの部分の面白さを感じ取ったりしながら聴いている。

(発言や記述)

- 音楽を主体的に感じ取り、自分の思いと音楽の要素を関連させながら表現している児童には、他の要素に着目しながら聴いたり表現したりすることができるように助言をする。
- 活動が停滞している児童には、拍の流れに気を付けて聴けるように、聴く観点をもう一度確認して、一緒に体を動かしたり、拍打ちに合わせて旋律を口ずさんだりすることで、拍の流れを意識させるようにする。

拍の流れに乗ったり、声の重なりに気を付けて聴いたりしたことで、感じ方がどのように変わったかを振り返らせ、それらを「曲のおすすめ」として紹介させるようにする。

学習のめあてをもとに学習を振り返らせ、拍の流れを感じ取ったり、拍の流れに乗って演奏したりする活動にさらに意欲をもてるようにさせたい。